# ひかり

第56号
(平成31年3月)
浄光寺寺報

山形市八日町
2-4-35
(023)622-6010

## 平成三十一年　春彼岸法要のご案内

寒さも幾分和らぎ、春の訪れと春彼岸が近づいてきたことを感じられる時分となりました。
つきましては来る三月十八日、左記の通り春彼岸法要を執り行いますので、皆様お誘い合わせの上、ご参拝くださいますようご案内申し上げます。

記

三月十八日（月）彼岸入日
午前十一時　彼岸法話
午前十一時半　彼岸法要
護持会会計報告・昼食

◎卒塔婆の申込・変更のある方はお早めにお寺までご連絡ください。（一本　二千五百円）



## 歴代上人報恩法要のご案内

浄光寺を開山した日満上人と、先代　畑栄運（一誠院日雄上人）の命日が同じ四月四日であるため、浄光寺並びに玄妙寺の開山忌歴代上人法要を四月に開催して参りました。奇しくも三年前には母　畑澄子も四月四日に逝去いたしました。
更にこの度の法要では、浄光寺と玄妙寺にて長くお勤めいただきました、故　中村栄正上人、並びに故　井上栄峰上人にも報恩の御回向をさせていただきます。
今年は左記日程にて法要を厳修いたしますので、ご案内申し上げます。また、法要後にはしだれ桜の花見会も併せて開催いたしますので、是非皆様にご参列いただきますようご案内申し上げます。

記

四月七日（日）　於　浄光寺
午後二時　歴代上人報恩法要
午後三時　お花見会
《会費》三千円



## 身延山団体参拝のご案内

恒例の身延山団体参拝についてご案内致します。本年は七面山登詣の予定でございます。皆様のご参加お待ち申し上げます。

《日程》六月二十五日(火)～　二十八日(金)
《代金》六万七千円(七面山登詣する場合)
　　七万四千円(七面山登詣しない場合)
《定員》四十名(先着)

《旅行概要》
［一日目］山形発(7時00分集合)～身延着～
　日蓮聖人御廟所参拝～清水房宿泊
［二日目］久遠寺朝勤・特別法要・輪番奉仕～角瀬～
　七面山登詣・七面山敬慎院参拝・宿泊
［三日目］または 本山蓮永寺参拝～焼津宿泊
　七面山下山～角瀬～
　または 静岡市内観光(昼食)～角瀬～
　合流後 戸倉上山田温泉宿泊
［四日目］富岡製糸場～下仁田こんにゃくセンター～
　山形着(18時15分頃解散)

※お申込み・詳細のお問合わせは寺までお願いいたします。

## 《年中行事のご案内》

| | | | |
|---|---|---|---|
| 三月十八日 | 春彼岸法要 | 八月上旬 | わんぱく寺子屋 |
| 四月七日 | 歴代上人法要 | 九月二十日 | 秋彼岸法要 |
| 六月二十五日～二十八日 | 身延団体参拝 | 十月中旬 | 合同御会式 |
| 八月四日 | 盂蘭盆施餓鬼会 | 十二月十五日 | 開運星祭り法要 |

## 長榮威徳天大祭のご案内

日蓮聖人を生涯お守りした長榮威徳尊天の功徳をたまわるべく、毎年恒例の長榮威徳天大祭を左記日程にて執り行います。

《日時》五月二十二日(水)午前十時半より
《場所》浄光寺長榮堂

※寺と長榮堂に、3月下旬を目安に案内を用意いたします。
※なお例年ご参拝の方には、案内を郵送させていただきます。
※案内の申込書にて、ご祈祷の申込をお願いいたします。

## 《お彼岸法話》 ～日蓮宗新聞より抜粋～

太陽が真東から昇り真西に沈む春分と秋分の日。その日を「中日」とし、その前後3日間の1週間を「お彼岸」といいます。聖徳太子の頃から大切にしてきた仏教行事です。「彼岸」とは「彼の岸」、つまり悟りや救いや安らぎを意味する理想の世界です。これに対し「此岸」とは、迷いや苦しみや穢れの多い「こっちの岸」、つまり娑婆（忍土）といわれる私たちの住む世界です。「此岸」から「彼岸」を目指して仏道修行に励むというのが「お彼岸」です。

コンピューターやスマホに囲まれ、私たちの生活は便利で快適なものになりました。それなのに現代は「〈忙〉の時代」と言われ、「癒やし」や「安らぎ」といったことがもてはやされています。生活や心に余裕がないからではないでしょうか。「忙」という文字は「心」が「亡ぶ」と書きます。縦に重ねると「忘」、つまり忘れるという文字になります。毎日を忙しい忙しいと生きている私たち。そのために大切な「心」を忘れがち。だから昔の人は、忙しくてお寺参りやご先祖へのご供養がおろそかになりがちな春と秋の農繁期前の1週間、心を見つめる修行やご先祖へのお墓参りのために過ごしたのです。

「今日彼岸／菩提の種を／蒔く日かな」という松尾芭蕉の句があります。今日はお彼岸。だから仏になるために良い種を蒔いておこう、というのです。また小林一茶は「彼岸とて／袖にはわする／風かな」という句をのこしています。血を吸うにっくきシラミ。日頃は見つけ次第殺すのだが、今日はお彼岸。殺生は止めて、袖をはうシラミをそっとしておこう、というのです。お彼岸をそんな気持ちで迎えていた江戸の人びと。

中には次のような川柳もあります。「彼岸中／嫁の笑いの／本音が出」。お彼岸のお寺参りでお姑さんがお出かけに。ほっとしたお嫁さんの本音の笑い声が聞こえる、というのです。さらに「中日に／琴のほこりを／嫁はたき」。お嫁に来て以来しまったままのお琴。今日はお彼岸でお姑さんは留守。急いで琴のほこりをはらっているお嫁さん。なんか微笑ましい川柳です。核家族化した今では見られない風景ですが、昔はお彼岸はこんなに日常的で国民的な行事だったことがよく分かります。

最近の日本人は家族や家、地域や国よりも「個人」を大切にするようになりました。その結果、自分さえよければ「自己チュウ」な人間ばかりに。シラミにまで心を配った、昔の人が大切にしてきた「彼岸」を思う心はどんどん希薄化し、ますます「此岸」のこの世を住みにくく、そして醜くしている私たちではないでしょうか。

日頃、自分のことだけを考えて生きている私たち。そんな私たちが春秋2回、忘れていた「彼の岸」に思いを馳せるのです。亡くなったご先祖を。親は子を、子は故郷の父や母を。夫婦はおたがいを。兄弟・友人を。障害者や病人・弱者のことを。震災や豪雨の被災者のこと。さらに仏菩薩を始め私たちを陰で支えてくれているたくさんの「お陰さま」を。そうした「彼の岸」に思いを巡らせ、そのために自分にできる善事善行を行うのです。善事善行といってもそんなに大それたことでなくていいのです。「ありがとう」「ごめんなさい」「お元気ですか」の一言だけでもいいのです。電話でも、祈るだけでもいいのです。「縁」ある「お陰さま」だけでなく、「無縁」といわれる「お陰さま」にも祈るのです。そんな功徳を積む時が「お彼岸」なのです。

大切なのは、お寺やお墓にお参りして終わるのではなく、お参りをして綺麗になった「心」で、「彼の岸」のために功徳を積むことです。その功徳が「今身」のあなたを「仏身」に変えてくれるのです。功徳をいっぱい積んで下さい。

## 境内清掃奉仕のご報告

昨年の十一月二十六日に実施した境内清掃奉仕についてご報告いたします。当日は天候に恵まれ、暑くも寒くもなく、風も弱い絶好の掃除日和となりました。総勢十五名にて、境内の落ち葉拾いを行いました。ゴミ袋にして十六袋、九百六十リットルの落ち葉を拾い集めました。清掃奉仕いただいた皆様、誠にありがとうございました。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



